

会話を通してみた幼児の実態

	相	内	弘	子
	森	田	外	喜
北陸学院短期大学	佐	々	波	秋
附属幼稚園教諭	内	野	正	栄
	井	波	ヨ	ウ
	北	村	靖	子

私達保育者は、保育をしながら多くの問題を持つ。ある問題は、すぐ解決できるが、ある問題は、研究の必要性を持っている。この研究していく必要のある問題を解決したいと願いながらも、なかなかできないのが現状である。しかしそれでいいとは決して思っていない。何とか小さい事でもよいから、研究してみたいとは、どの保育者も願っている事である。

今回、この「幼児の会話について」の研究をする機会が与えられ、非常によろこんでいる。

この研究の発端は39年の9月、北陸学院短期大学附属幼稚園教師20名が協力して「子供の有りのままの会話、言葉を集めてみよう。」という南信子先生の提案によって始まったのである。

各々の幼稚園に於て、教師は主に自由な時間に子供の自由な会話をとらえて之を集めていくにつれ、今まで何げなく聞き流していた子供の言葉に新たな興味と保育に結びつく大きな鍵が与えられたのである。

こうして40年の2月10日までに約500の話題が集められた。この資料を元にして保育に役立つように、いろいろな方面から考察した。之はその結果の報告である。

○取材の期間 昭和39年9月1日から、昭和40年2月10日まで

○記録した時間 保育中おもに子供が自由に遊んでいる時間

○方法 一定の時間を定めず、保育のさまたげとならないよう記録できる時に之を行った。

この資料から、次の問題について考察した。

- 1 会話を通してみた幼児の話題
- 2 年令による相違とその発達
- 3 性別による相違
- 4 環境の影響

5 幼児の空想性と現実性

1. 会話を通してみた幼児の話題

表1は集めた会話を話題として、分類し、項目別に数的に表わし、年齢別にもわかるようにまとめたものである。

項目は、会話の中より機能的に作ったもので、大体の興味の実態を知るための便宜上のものである。

又話題数について、子供の一つの会話はいろんな話題を含んでいる場合が多いので、2～3項目に所属させたので多く重複している。

表1によると、3才児においては、「家族」に関する話題が一番多く、ついで「友人関係」「言葉（言葉そのものを話題としている意味）」社会に関する話題の中の「テレビ映画」と続いている。

4才児では「言葉」に関するものが一番多く、ついで「テレビ映画」「遊び中のせりふ」となっている。

5才児では、「遊びの中のせりふ」「言葉」「家族」「動物」「数字」の順である。

どの年齢に於いても共通しているのは、家族、友人等に関するもの。「社会」の中の話題では、テレビ映画等が多いのは、注目に価する。「科学」の話題では、共通して植物よりも動物が多く、死等についても、3才児にすでにあらわれている。言葉に関するものが多い事、又、話題がとにかく広範囲である事も考え、この時期の言語指導及び望ましいものの見方、考え方の指導の必要な事を考えさせられる。

2. 年齢による相違とその発達

子供達は、物事をどの様に考え、どの様に見つめているのか。それが3才児、4才児、5才児と年齢的にどの様に発達して行くのか。各々の年齢の特徴をとらえて比較してみると、幼児を正確に理解する事ができるのではないかと考え、前記の資料に基いて、この点について考察してみた。

共通していえることは、彼らは物事を声を出して考えるという事であり、彼らの思考は、すべて言葉となってあらわれているという事である。

次に、各々の年齢についてその特徴を例をあげながら考えてみる。

3 才 児

①3才から4才にかけて彼らの言葉は、一応のまとまりをみせ、次第におしゃべりで新しい言葉に興味を示しはじめる。

表1 会話を通して見た幼児の話題

項 目		3 才		4 才		5 才		項 目		3 才		4 才		5 才		
		話題 数	%	話題 数	%	話題 数	%			話題 数	%	話題 数	%	話題 数	%	
社 会	外 国	1	0.5	0	0	1	1.1	科 学	動 物	12	6.3	7	6.2	8	8.8	
	社 会	6	3.1	12	10.0	0	0		植 物	3	1.5	0	0	0	0	
	結 婚	1	0.5	2	1.7	0	0		鉱 物	1	0.5	1	0.8	1	1.1	
	乗 物	8	4.2	10	8.9	3	3.3		天 体	1	0.5	0	0	1	1.1	
	テレビ映画	15	7.8	18	16.0	6	6.6		電 気	1	0.5	0	0	0	0	
	行 事	1	0.5	0	0	1	1.1		気 象	6	3.1	1	0.8	2	2.2	
	暦	1	0.5	0	0	0	0		熱	1	0.5	0	0	0	0	
	宿 泊	0	0	0	0	1	1.1		遊 具	道 具	3	1.5	1	0.8	0	0
	人 物	0	0	7	6.2	1	1.1			機 械	0	0	1	0.8	0	0
							遊 具	3		1.5	1	0.8	0	0		
人 間	友人関係	17	8.9	3	2.6	3	3.3	空 想	お 化 け	1	0.5	1	0.8	2	2.2	
	家 族	24	12.6	10	8.9	8	8.8		夢	0	0	2	1.7	1	1.1	
	性	4	2.1	3	2.6	4	4.4		忍 耐	0	0	0	0	1	1.1	
	教 師	3	1.5	7	6.2	1	1.1		空 想	0	0	0	0	1	1.1	
身 体	病 気	6	3.1	2	1.7	1	1.1		地 獄	0	0	1	0.8	1	1.1	
	身 体	8	4.2	3	2.6	0	0	色 形	色 形	4	2.1	3	2.6	1	1.1	
	生 理 現 象	0	0	1	0.8	1	1.1		色 形	0	0	1	0.8	0	0	
	感 覚	5	2.6	1	0.8	7	7.7	観 念	観 念	1	0.5	1	0.8	1	1.1	
生 活 習 慣	身だしなみ	19	9.9	5	4.4	4	4.4		定 義 づ け	0	0	1	0.8	1	1.1	
	食 物	9	4.7	9	8.0	5	5.5		道 徳	0	0	6	5.3	0	0	
	睡 眠	4	2.1	1	0.8	1	1.1		生 命	死	4	2.1	3	2.6	3	3.3
	清 潔	2	1.0	0	0	0	0	成 長		7	3.6	3	2.6	1	1.1	
宗 教	宗 教	6	3.1	5	4.4	3	3.3	情 緒	情 緒	2	1.0	3	2.6	6	6.1	
音	音 楽	13	6.8	2	1.8	0	0		恐 怖	1	0.5	0	0	0	0	
	音	0	0	0	0	1	1.1	言 葉	言 葉	16	8.4	25	22.3	9	9.9	
遊 戯	遊びの中のセリフ	11	5.7	14	10.7	12	13.3		数 字	3	1.5	1	0.8	8	8.8	
	ゲ ー ム	0	0	2	1.7	5	5.5		文 字	3	1.5	0	0	1	1.1	
	遊 び	2	1.0	0	0	0	0		話 題 総 数	240		190		108		
	本	0	0	2	1.7	0	0									
絵 画 製 作	2	1.0	4	3.5	0	0										
建 物	建 物	2	1.0	0	0	0	0									

次にあげる会話は、朝、子供達が登園して目診をうける順番を待っている時に話されたもの。

例1 U子「私きのう、かぜひいとしたんや、私のお姉ちゃんもかぜひいとしたんや、ナースリーと幼稚園とつづいとしたでしよ、だからすぐかぜうつっちゃう。ずっと、ずっと前、スキー行ってアイスクリームたべた。」

T子「ずっと前、お姉ちゃんとお兄ちゃんとスキー行って、しりもちついた。」

U子「ほんまは土曜日いくウエー」

先生「どこへ？」

U子「スキーに」

S夫「これとこれと着とるウエー」

K夫「けんキャラメル五つかったウエー、ほしてけんだって出てきたんぞ。」

H夫「ライオンは、ジャングルのいちばんの王様や。」

先生「どうして」

H夫「ほんかって、かんむりかむっとったもん。」

この様に彼らが登園して室内に入ると家でおこった出来事、その他様々の事の話先生や友達に披露するが、一人一人がこのように持ち込んで来るので、2、3人或いは4、5人と人数が多くなればその話は、いつつきるとも解らない様な状態になる。

教師も彼らの話に興味をおぼえ、その話に加わればそれこそ延々と続くといった状態である。又今まで聞いた事のない言葉を耳にした場合等すべて、その意味をのみこんだかの様に確信に満ちて話すが、どこか手さぐりの状態で注意しながら使っている様子も見られる。

②彼らの話は、非常に現実的でしかも端的である。実際に見た事、聞いた事、経験した事等自分の知っている事を一番印象深かった事から順にそのまま話す。

次の会話は、2人の子供が朝室内で話っていたもの。

例2 K子「雪のどかすブルドーザーあるやろ、自動車のせとったさけ、ひっくりかえってん、大和の前でやぞ。ほんでも大和こわれなんだウエー、何でかいいうたら……」

H夫「鉄や」

K子「あのーくぎうってあるさけや、ほしてウインドーは鉄でできとるさけや。」

③彼らは非常に自己中心的な考え方をしている。それは次の様な方法で表現されている。

○すべてのものが、自分の様に行動し、考えると考えて表現する。

例3 U子「ゆきちゃんのうちの朝顔とおとなりのうちの朝顔とおててつないだ。」

例4 N子「なーちゃん海いったとき、貝ベロ出しとった。」

○又例1にみられるようにその話し方は、近くに友達や先生がいるということが話をする事を刺戟している様であるが、あまり聞き手の事を考慮に入れず相手が自分の話に対して返事をしようが、しまいが一向にかまわないらしく、5、6人が一度に話をしても平気であ

るし、一人言であるとか、行きずりにちょっと話しかけて行くという場合が比較的多い。

④次第に想像性が開けてくる。おぼろげに死とか、おばけ等という事が興味の対象になってくる。

例5 「うちの犬ね、とうに戦争のとき毒のおだんごたべて死んだ。」

例6 「うちの赤ちゃんね、おばけつれてってん。みちこって名前やったんやけど死んでん。」

⑤質問の内容も 次第に物の因果関係が解ってきたのか「どうして？」とか「一 だから一だ。」という事が多く表われ、理屈っぽいといわれる状態になる。例2の中にもこのような状態がみられるのではないかと思う。

4 オ 児

①3才児で高まったおしゃべりは、さらに4才をすぎるとその激しさを増してくる。

彼らは新しい耳なれぬ言葉を徹底的に使い試してみる。彼らはテレビや大人の言葉をそのまま上手に使う。

例1 「小さいもんいじめたらいかんね。それがいい、それがいいといいました。」

例2 「申しおくれましたがね、今日私のお姉さんのお誕生日なの。」

例3 「先生もうすぐうれちゃうよ。だってママがそうってたもん。」

②しかし彼等の経験は、さほど多くなく、これら多くの大人をびっくりさせる言葉を使っても大抵の場合は、言葉の方が先走っている。

③彼らの話し方は、物事を誇張して表現し又自分をうんとほめる様に話す。

例4 「先生より高いが家や、家位本もってるのよ。」

例5 「ミルクみんなこぼしたらミルクの海になってしもがいね。」

例6 「文雄ちゃんやかましいなあ。文雄ちゃんのおなかくりぬいて大きいもんいれてふぐになって海の中で遊んでおれ。」

④3才児の時の様に質問をよく発するが、それはその質問した答自体に注意を向けるよりも、その質問——答という関係によりさらに次の話へと話をすすめるための糸口を作る様な目的で発せられる事が多い。

⑤4才児の他との最も著しいちがいは、激しい流動性を持つている事である。

今積木で「家」をつくるといっていたかと思うと、次の瞬間にはそれが「自動車だ」といったり、「飛行機だ」といったり、という様に変っていく。この様な流動性が遊びの中の会話に多く現われてくる。そして、3才—4才にかけておこった想像性はこの時期に非常に発達する。

この想像性と流動性が一つになって、子供達の遊びをさらに盛んにする要因と考えられる。

次の会話は、積木をして遊びながら話されたもの。

例7 S夫「オーイ、だれかのらんか。」

K夫「女でも良いぞ。」

C子「私のせてー。」

S夫・K子「発車します。どこまでいきますか。」

C子「温泉まで行きます。」

S夫・K子「どこの温泉ですか。」

C子「栗津温泉。」

S夫「栗津温泉は高いからやめとすっか。ほやけどこれはスポーツカーだから、東京のハイウェーまで行こう。」

K夫「オッケー」

「ブーウー」「ブーウー」

S夫「キッキー、あぶない、あぶない。」

K夫「信号が赤になりました。」

C子（独語）「この自動車、地下室あるなんてステキやわー。入ってみよ。なーんだれもおらんがか。」

K夫「青になりました。ブブー」

S夫「ぼくは、こっちに曲りましょう。」

K夫「ちょっと待ってや。そんなことしたら自動車こっちから半分になってしもうがいや。」

S夫「ぼくおまわりさんに免許証みせてこー。」

K夫「ぼくも。」

S夫「今度は、バックしますよー。」

S夫「あぶないウエー。どけよ。どかんかいや。」

K夫「今度猛スピード出しますから、しっかりつかまってください。」

K夫「栗津温泉です。」

S夫「何いってんだ。これは、ハイウェーにおるげぞ。」

K夫「あっ、そうか。今度はバスにしよう。」

5 才 児

①非常に流動性に富み移り気であった4才児は次第に一つの目的を持って行動する事が出来る様になってくる。

彼等は絵をかくとき「鉄人かこう」と話して鉄人をかき、「火の玉って何？」と火の玉の話をして火の玉からそれる事はない。

②又空想的、想像的であった4才児は次第に実存的なものから離れなくなり、物の見方、考え方が正確で簡単明瞭である。（これは表面的には3才児と共通している様に思われる。そして自分以外の広い世界にも目を向ける事が出来る様になる。

③3才児の時には非常に自己中心的であったのに対し、他人の存在を意識し相手に応じて考えをのべたり、質問したり他人に働きかける場合が非常に多くなってくる。

④又まじめに自分や他人を批判する事が出来るようになる。次の会話は5才児のこれらの特徴と考えられることを含んでいる。

この会話にはお父さんとお母さんがけんかし、子供が仲裁に入ったと云う会話から始まる。

- 例1 A子「大人がけんかしてそして私なんか怒るんだから、いい気になりやがってるわね。」
 B子「自分で考えてみると良いわ。」
 A子「おばけになっておどかしてみたいわ。」
 B子「だってあんまりおこるんですもの。」
 A子・B子「エヘヘヘ……おもしろいわね」
 A子「私のお父さんたらすぐおこるからきらい、いやなお父さん、死んでしまうと良いわ。なんでもすぐおこるからきらい。失敗するとすぐお母さんもおこるの。」
 B子「そうよ、うちのお母さんも、ガンコババアなんだから、大人の話に子供が首をつっこむってね。」
 A子「私だってお母さんすごいんだから。キイーキイーガァーガァーハーハー」
 A子「お父さんお母さんきえると良いわ。ランプもってると良いのにね、お父さんお母さんきえるのに。」
 B子「自分で考えてみたら良いのよ。そういったってこっちだって考えがあるわよ。私一人で充分考えてみるわ。」

3才児の時には考えられなかったくらい彼らはもう立派な大人の様に考えも、物の見方も、感じ方も成長しているのがうかがえる。

3. 性別による相違

集められた話題に参加した幼児を男女別にわけ年令毎に考察してみた。

3 才 児

表 №1 男				女			
項 目		話 題 参 加 人 数	%	項 目		話 題 参 加 人 数	%
人 間 関 係		60	30	人 間 関 係		52	26
社 会		32	16	生 活 習 慣		32	16
言 葉		24	12	社 会		23	11.5
生 活 習 慣		23	11.5	遊 戯		18	9
科 学		20	10	言 葉		16	8
身 体		13	6.5	科 学		14	7
生 命		7	3.5	身 体		11	5.5
宗 教		7	3.5	生 命		10	5
遊 戯		4	2	音		9	4.5
音		4	2	宗 教		5	2.5
色 形		3	1.5	色		4	2
建 物		1	0.5	情 緒		3	1.5
遊 具		1	0.5	空 想		1	0.5
観 念		1	0.5	建 物		1	0.5
空 想		0	0	遊 具		1	0.5
情 緒		0	0	観 念		0	0
合 計		200		合 計		200	182

表1 話題参加人員数男200人、女200人を男女別に16の項目にまとめてみると次の様な結果になる。

男児話題参加人数 200 人中、人数の多かったものは、人間関係、社会、言葉、生活習慣に関する話題であり、女児話題参加人数 200 人中、人数の多かったものは、人間関係について生活習慣、社会、遊戯に関する話題であった。次に実例をあげてその興味及び考え方の共通性、相異性について考察してみたい。

例1 人間関係に関するもの

男児「こんなことは男のすること。」

女児「まりちゃん、女やしきれいなお嫁さんになるがや、ほして赤ちゃん生むがや、観光会館でするがや。」

男児「赤ちゃんおったら、本当の金槌でボカンでたたくがや。ほして、首ぎゅってするがや。」

女児「私やったら庖丁で切るがや。女と男とどっちがいいかな。」

男児「男や。」

女児「女や。」

男児「男の方が強いがや。」

女児「ほんなら私、この子をやっつける。」

女児「くみちゃんちょっと来んか。秀ちゃん男の子やがに、こんな女の子みたいな靴はいとる。」

女児「私の赤ちゃんおばけつれてってん、みちこって名前やったんやけど死んでん。」

女児「ほんとにお母さんとだっこせんと、お祖母ちゃんとだっこせんと、けい子一人でぐうぐううてねとるがや。」

男児「ぼくのお母さんぼくきかんと外におい出すっていうげぞ、ほしておしりペンペンしたりするげぞ。」

男児「ぼくのおとっぺよっぱらいやぞ、会社の帰りいつもよっぱらって帰ってくるんやぞ。」

男児「ぼくもやぞ。」

男児「あんちゃんの事ね、和志っていうがや。」

女児「あのね、あのね、さゆりのパパね、さゆりの事さゆっぺ、さゆっぺって呼ぶがやぞ。」

女児「きのうね、おじいちゃんとしいっちゃったから還暦きたんや、そいでね、まりちゃん花束あげたの。」

男児「一夫ちゃん、一夫ちゃん、浩之ちゃんは小さいのだから、わざわざ負けてやるまっし。」(自由遊びお相撲をしている時)

女児「秀ちゃんロケットあげるね、ロケットやるぞ、ロケット、ロケット。」

男児「ロケットって何や。」

女児「あんたには関係ないこと！ 秀ちゃんにあげるがや。」

男児「映子ちゃんて強いがやね。」

女児「あっ博之ちゃんこわした。」

男児「ぼく戦車つくるもん。」

女児「ほんでも、私らこれ(積木)先に見つけてんぞ。」

女児「なおしてって。」

女児「ほうや。」

女兒「自分でこわしたんやし自分でなおさんなんわエ。」
男児「ほんでもぼく戦車つくりたいもん。」
女兒「私ら、そんなもん、作りたくないもん。」
教師「それじゃ博之ちゃん、あの箱で作ったら。」
男児「いや。」
女兒「どうする。」(考える)
女兒「あっ、いいことわかった、博之ちゃんお父さんにならんか。」
男児「うん。」
女兒「かっちゃんおいで、何かおもしろいことあるさけおいで、映子ちゃんと一緒に遊ぼう。」
男児「今お話しとるさけ、あとからね。」

例2 社会に関するもの

女兒「お庭行ったらわたし黄色い輪持って追っかけてやろう。」
男児「ああ、ほしたらぼく鉄人になって助けてあげる。」
女兒「けい子大きくなったら、ビッグXになってけんかするもん。」
男児「ほんでもオックスの方が強いぞ、鉄で出来とるさけ。」
女兒「ほんなら風のふじ丸になるもん。」
男児「ちゅうちゃん、風のふじ丸の方強いわエ。」
男児「オックスとか鉄人とかやったら、どこでもとぶ事できるわ。」
女兒「ほら、こんな所と**ぶ事できるけえ?**とべれるよ。」
男児「そんながだめやがいねエ、こうしてとぶがや。」
女兒「できるわねエ。」
男児「ほんならこのせまい道通ることできる。こんながにして、ぼくら、ここもとぶ事できるよ。」
女兒「悪者なんか力がないよ、鉄人の方が力があるよ。よーし、ほうれん草食べて強いぞ。」
男児「あー、やっぱり鉄人呼んでこなだめや。」

例3 生活習慣に関するもの

男児「この手袋新しいがや。」
男児「どこで買うたん。」
男児「大和やろ、お父ちゃん買うたさけどこやわからんがや。」
女兒「こんなきれいな花ついとる。きれいでしょう。」
女兒「この洋服ママに買ってもらったんや。」
女兒「あのね、ママね、幼稚園に行くようになったら学校と一緒にやさけエ、あんな洋服着ていかんて、セーラーのえりやぞ。」
女兒「みゆきのママもお洋服買ってくれるわ。」
男児「せいちゃんとぼくの洋服一緒みたいやろ。」
男児「先生はくね、今日ね、一人でオーバーきてきた、ほして一人でボタンとめた。ほして一人でカバンかけてきた。」
女兒「私天使さまになりたいこっちゃ、ほやかてあの洋服きれいやもんの、何回でもなっても良いわ。」
女兒「あんた、髪長いね。」
女兒「なーん長ないわね。」

女兒「髪切らんとおくこっちゃ。そしたら長くなる。」

女兒「真理ちゃん、髪なおしたいがや、本当に切らんかったら髪長くなる?。」

女兒「いや、髪さわらんといて。」

女兒「ほら、いい靴でしょう。」

女兒「そんな黒い靴より白い方がよっぽどかわいいわ、赤とか、ほらこの白い靴の方がかわいいわね。」

以上を通して考えられる事は人間関係（家族、友人関係等）については男女共に性の意識がはっきりしており、男の立場、女の立場があるという事をわきまえているように感じられる。男女共に友達の好き嫌いがはっきりしている。自分の仲間、あの人の友達という意識が、男女共にあるように感じられる。

社会に関する話題について、社会の分類項目では男女共にテレビに出てくる人物に関する話題が最も多く、男女共にテレビの影響を受けている事がわかる。

生活習慣については男女共に身だしなみに関する話題が最も多い。衣服の事に関して男子は品物の比較や、売っている場所の事が話題になっているが、女子は衣服を身につける物として感じ、又髪形などにも非常に関心があり、男らしさ、女らしさという事がこの話題を通して感じられる。

4 才 児

話題参加人数男 234 人、女86人を男女別に15の項目にまとめると次のような結果になる。

男

項 目	話 題 参 数	%
社 会	68	29.49
遊 戯	45	19.23
言 葉	25	10.68
人 間 関 係	24	10.26
生 活 習 慣	21	9.40
科 学	11	4.71
宗 教	8	3.42
観 念	7	2.99
身 体	6	2.56
空 想	5	2.14
色 形	4	1.71
生 命	4	1.71
情 緒	3	1.28
遊 具	2	0.85
音	1	0.43
合 計	234	

女

項 目	話 題 参 数	%
社 会	19	22.09
遊 戯	18	20.91
人 間 関 係	10	11.64
生 活 習 慣	10	11.64
言 葉	7	8.14
科 学	7	8.14
音	4	4.65
生 命	3	3.49
宗 教	2	2.33
身 体	2	2.33
情 緒	2	2.33
色 形	1	1.16
観 念	1	1.16
遊 具	0	0
空 想	0	0
合 計	86	

男児話題参加人数 234 人中、人数の多かったものは、社会、遊戯、言葉、人間関係、生活習慣に関する話題であり、女児話題参加人数 86 人中、人数の多かった話題は、社会、遊戯、人間関係、生活習慣であり、3 才児と異なり社会に関する話題がトップをしめている。

次に話題の多かったものの内容について実例をあげてみたい。

例 1 社会に関するもの

男児「おい阪神優勝したぜ。」

男児「ほうや、ぼくのパパ応援しとるんや。」

男児「おい茂ちゃん、阪神優勝したぜ。」（答なし）

女児「ねエ、パーティ行きましょうよ。」

女児「どろぼうはいてもいいが。」

男児「今日は台風ですか。」

男児「そうですよ。」

男児「ちがうですよ、あしたはエイトマンですよ、今日はショウダウンあるよ、あるね、みるこっ
ちゃ、鉄人のつぎ。」

女児「ね先生、舟木一夫ネ、テレビで花咲く乙女たちを歌うやろ、そうやさかい、ゆうちゃんもい
っしょに歌うわい、先生知らんが——うとうてあげるか。」

男児「ぼくお巡りさんに免許証見せてこ。」

女児「先生、赤ちゃんおるがと一人とどっちがいい。」

例 2 遊戯に関するもの

男児「オーイ誰かのらないかー。」

男児「女でもいいぞ。」

女児「私のせて。」

男児「発車します。どこまで行きますか。」

女児「温泉まで行きます。」

男児「どこの温泉にしますか。」

女児「栗津温泉。」

男児「栗津温泉は高いからやめとすっか。はやけどこれはスポーツ・カーだから東京のハイ・ウェ
ーまでいこう。」

男児「オッケー。」

男児「ブーブー」

男児「キッキー、あぶない、あぶない、信号が赤につりました。」（以下略）

女児「なにして遊びましょ。」

女児「おはようスキップをしましょう。」

女児「じゃおもしろいことをしましょう。おにごっこしてあそびましょう。」

女児「うん、そうしましょう。」

女児「ジャンケンポイ」女児「ホラ、勝った。」（2 人人形を手に走り出す）

女児「もうやめて、ほかの事しよう。」

男児「ヘエトランプある。来てみるとわからんもんだな。幼稚園にトランプあるとはね。」

男児「ほや、あるがや、知らんが。」

男児「来てみるとわからんものだね。」

女児「公子お正月かるたしたんや。」

女児「神経すいやくは？ しんけいすいやくってどんなもんやて思う？ たと一緒にのってするんや。」

女児「わからん。」

女児「あのね、順番がね、下なら、上なら、上の字がそれでそれからあのね、合うたらねもう一つ出来るが、パパぬきもしたし、そんだけした。」

例3 人間関係に関するもの

男児「ぼくのお母さん、怒ったらライオンよりこわい。」

男児「ぼくのお母さんただへんなことしただけで怒るがや。」

男児「おうちでふざけたら叱られるもん。ほやしおとなししとるがや。」

女児「赤ちゃん沢山いるわエ、うちのもう一人の赤ちゃんの名前ね、とどこや。」

女児「とも子。」

女児「赤ちゃん沢山いるんや大阪やろ、京都やろ、大阪の赤ちゃんが一番泣き虫、京都の赤ちゃん一番おこりんば、もう少ししたら又二人遊びに来るんや。」

女児「うちに赤ちゃんいないわエ。」

男児「先生どうしてお姉さんやし、先生なんや。」

男児「ばかだなあ、先生はお家ではお姉さんやけど、お勉強やらして幼稚園に来て、みんな先生、先生というとるがや。」

女児「先生なに年や。」

女児「私しってるよ、先生××先生と同じ年のはずだもん。」

女児「ほうか。」

女児「ひつじ年でしょうちゃんとしてるんだから。」

「先生もうすぐ売れちゃうよ、だってママがそういってたもん。」

例4 言葉に関するもの

男児「小さいもんいじめたらいかんね。それがいい、それがいいといいました。」

女児「睦人ちゃんそれ潜水艦？」

男児「なんべんいうたらわかるんや。」

女児「これわたしかいた船や。」

男児「ア、カッコイイ。」

女児「わたしの船そんなにカッコイイかな。」

男児「まぜて。」

女児「いいよ、でもふざけんといて。」

男児「だいじょうぶ、おっかさん。」

女児「トンボトンボはどこへいく。おもしろいトンボおもしろいトンボトンボはどこへいく。」

例5 生活習慣に関するもの

男児「鳥食べられるわエ。」

男児「僕食べたことあるわエ。」

男児「僕牛の肉食べたことあるわエ。」

男児「そんなもんかんたるいわエ、そんなら生の肉は。」
男児「ふエー、積木食べられるけ？」
男児「三角の積木食べたら三角の顔になるわエ。」
男児「なんのためにのむがや。」
女児「健康で元気のためにのむがや。」
女児「のどがかわいたら死ぬから。」
女児「人間が何でも食べなかったら死ぬやろ。」
女児「けい子ちゃん髪切ったん！びっくりしちゃった。」
女児「私ステキな指輪持ってるわい。」
男児「子供が指輪を持つなんておかしいなー、僕のママはダイヤの指輪やぞー。」

例6 科学に関するもの

男児「水牛は強いよ。」
男児「毒ヘビの方が強いよ。」
男児「ほかて水牛ツノあるよ。」
男児「毒ヘビゆうたらな、口から毒出すがやぞ。」
女児「さなぎのへやってなーに。」

まず社会の項で注目を引いたのは、テレビの男32人に対し、女2人で男児のテレビの話題は、鉄人、忍者部隊、スーパージェッター、姿三四郎など漫画や、その他ドラマの強くて勇ましい主人公の事が圧倒的に多く、それらの人物にあこがれ、それらになりたい願望がよくあらわれ、又コマーシャルを真似たのもあった。その他男児はジェット機や野球などのいかにも男の子らしいダイナミックな話題に対して、女児はパーティとか、花咲く乙女の歌といったいかにも女らしい柔い雰囲気を感じさせる。

遊戯の項では、男児の会話の大部分は、現実の社会の中の事を客観的に捉えて、それを遊びの中に取り入れている。又定義づけや事物への価値づけもしっかりしており、大人の様な口調も多く見られる。それに対し女児はその時々の子近な事について話し、それを遊びに持って行っている様子が感じられる。

言葉についての話題も男児の方が多く、歌ではテレビ、マスコミ関係のコマーシャルや、特異な言葉、現代の流行語の影響をうけ、それらの言葉を大胆に適宜に使い分けている様に受取られる。それに比べ女児にはその様な言葉は少ない。

科学に関する話題では、男女共にその数の中の大部分が動物についての話題である。しかし内容は女児は犬とか、見ている本に出るものについて、男児は声を大にして錦ヘビ、ゴリラ、水牛について話している。

以上の事を統合して考えてみると、男児は比較的目的を広範囲に向けているのに対し、女児は身近な事、生活の中での経験を通した事を話題にしている様に思う。又男児の大胆で開放

的な特徴や、女兒のやさしい繊細な感じが会話の中にあらわれているのを感じた。これらを通して男女の間に、それぞれ男らしさ、女らしさの特徴が4才児の会話の中にもあらわれている事が感じられる。

最後に男女共通して考えられた事は、共に現実の生活や社会に立脚してものを考え話している。中でも社会や人間関係にある会話は、従来の幼児に聞かれなかった会話の様に思い、この時代の中にある幼児の姿の一端である事を考えさせられる。

5 才 児

男

女

項 目	話 題 参 数	%
遊 戯	35	30.71
言 語	18	15.89
社 会	17	14.91
空 想	16	14.35
生 活 習 慣	7	6.14
科 学	6	5.26
身 体	5	4.38
人 間 関 係	2	1.66
宗 教	2	1.75
観 念	2	1.75
音 色	1	0.89
生 命	1	0.88
情 緒	0	0
合 計	114	

項 目	話 題 参 数	%
遊 戯	10	20.83
生 活 習 慣	7	14.58
人 間 関 係	6	12.5
社 会	6	12.5
空 想	5	10.42
科 学	4	8.33
情 緒	4	8.33
言 葉	3	6.25
生 命	2	4.17
身 体	1	2.08
宗 教	0	0
音 色	0	0
形 念	0	0
観 念	0	0
合 計	48	

表3 話題参加人数男 114 人、女48人を男女別に14の項目にまとめると次の様な結果になる。

男児話題参加人数 114 人、多かったのは遊戯、言葉、社会、空想についての話題であり、女兒について多かったのは遊戯、生活習慣、人間関係、社会、空想についてであった。

次に話題の多かったものの内容について実例をあげてみたい。

例1 遊びに関するもの

男児「どれ出すかな。13はこっちやろう。そんならこっちだしてやる。パス。」

男児「あんまりいいのないわ。こっちに。」

男児「みていいがかいや。ああ助かった。としゆきちゃん持っとって。」

「はやくしんかいや、ばか。」

女兒「どっち勝つんでしょう。」

男児「むちゃらけになった。」

男児「くみちゃんや。」
男子「どうしてパスしんならんのや。」
女児「バレ－に行きましょ。」
女児「ちょっとまってね。今からお医者さん行くんやぞ。洋服かえて。オーバもきて。ぴゅうと風吹いて寒い日だわね。ボタンとれとる。寒いわよオーバーきないと。」
女児「はーい。」
女児「いいかね。オーバーきないとどこへもつれていけないわよ。早くきなさいよ。」
男児「ぼくは48点である。」
男児「よし。やらんか。」
男児「あたったらあほらしいや。」
男児「ぼくは49点である。いいですか。50点であります。いいですか。よいいくぞ。」
男児「くやしい。」
男児「まねするな。」

例2 社会に関するもの

女児「アメリカ二つもある。」
男児「日本、小さい。」
女児「イタリヤどれや？」
男児「ないわいや。」
男児「アメリカこんなでかい。」
男児「日本、あかいとこや、これなんてかいてある？」
「アジヤ。わからんかいや。」
女児「アメリカ三つも四つもあるよ。こっちにもあるよ。」
男児「こっちの地図にでかいアメリカあったわ。」
男児「あっ飛行場つくろう。」
男児「ぼくもまぜて。ぼく1号機。」
男児「公一ちゃん2号機、ぼく3号機。」
男児「1号機、一番いい飛行機やぞ。みとれ。一周もうてぐるぐるやぞ。」
男児「先生、レッドって赤の事でしょう。じゃあぼくの三角翼レッドにしよう。」
男児「先生、原子力潜水艦どうして来たらいかんか知っとるけ？あのね、きたないもの出すしや。」
男児「スーパージェッタやったらできるわ。屋根なんかビューンとつきぬけていくわエ。」
男児「鉄人かて出来るわエ。」
男児「ビッグXも出来るわエ。」
男児「スーパージェッタやったら何でもできるがや。五百万馬力やわエ。」
女児「男の子ってみんな、ロボットの絵ばかりかくね。どうして？わかった。男の子はいつもロボットのテレビばかりみているからやね。」
女児「私こんどの土曜日と日曜日うちにおらんわ。」
男児「なんで。」
女児「お泊りするげ。」
男児「どこで。」
女児「おとなりのうちで。」

女兒「私大鵬大好きやわエ。」

女兒「大ほう？大ほうならドーンで打つ大砲やじ」

女兒「ドーンで打つ大砲でないね。大鵬、おすもうさんのやあ。」

例3 その他空想的な話題について

女兒「おもしろいお話してあげっか。男の人お山でもやしたらね、ここ迄もえて半分もえんで。お山におばけ出るようになってん。」

男児「この世にはおばけなんかいませんよ。」

女兒「それでもね、半分しかもえなんだの。」

女兒「中迄みたん。」

女兒「親類のお姉ちゃんにきいてん。」

男児「この世にはね。おばけなんてあまりおらんげ。昔しかおらんかってん。」

女兒「先生、あの蛙一人やしかわいそうや。にがしてやりゃいいがに。そしたらにげていくよ。きつとじぶんとこ。水の中ぴょんぴょんはいつていくんでないけ。」

女兒「おなか大きすぎるわ。もうじき赤ちゃんうまれるわ。」

男児「天国にお陽様あるだろう。そのお陽様にあたると鉄人がしびれちゃうんだってさ。だから天国には行かないんだよ。」

男児「昨日、台風20号こんかったうえ。逃げてったんや。」

男児「あれ丸いもんなんや？雲のところにぶらさがってるびかびか光る丸いもん。」

男児「幼稚園にあの雲おちてきたらそれに乗ってお空に上るわエ。」

女兒「先生、もういくつ寝たら遠足や、五つか。ともちゃん六つかとおもた。ほんな目ぬかせばいいがね。」

女兒「地獄てこわいとこやね。」

女兒「ほうや大きいお鍋にぐらぐらお湯わいとるがや。」

女兒「地獄てこわいとこや。針の山もあるがやぞ。」

以上、話題の多かったものを男女別に比較してみる。

①遊戯（遊びの中のせりふ。ゲーム。ごっこ遊び）に関する話題については

男女が別々に遊んでいる時の話題が多かったのであるが、男女の話題を比較してみると男子の会話には数に関する物が多く、又女子の会話には衣服とか身の廻りに関する家庭的な物が多い。

②社会（外国、乗物、テレビ等）に関しては

男子は自分の知っている事は自信を持って述べているように思われ、又女子は自分の感じた事や経験した事を述べているようで男子の方が知的な感じがする。

③空想（おばけ、夢、忍術、空想、地獄）

空想上の話題については女子は空想上の物（こわい物）に対して不安な気持ちを抱いているようにみえるが男子にはそういう所がみられない。自分の願望を述べる場合も男子には非常に冒険的な所があり、大きな夢を抱いているように思われる。こわい物、わけの

わからない物に対しては気にせずその反面、自分がこうありたいという事には大きな夢を持ち、のびのびしているのがこの空想上の男子の話題にあらわれている特徴のように思われる。

以上3つの話題を比較した結果、5才児の男女の物の見方、考え方、感じ方に男らしさ、女らしさという事があらわれているという事がわかる。

4. 環境の影響

幼児の会話には環境の影響と思われるものが非常に多い事にきづくが、この点について考察してみた。

① 家庭環境から影響を受けている点

商店経営者の子供は人に接する機会が多かったり使用人の中でちやほやされたりする機会が多いため、自慢話や、大人の会話をそのまま真似したり、5才児になると大人を批評した会話などがみられる。

一人っ子の場合など特に両親の話題などから影響を受けて洋服の事や髪の毛の事など親が子供に言ったそのままの言葉を自分でもう一度再現している。

家庭に祖父母などがある場合、言葉数などが豊富になっている。時々おもしろい言葉を使用している。

例1「うちの赤ちゃんたつのおとし子や、ほやさけ1つながや、赤ちゃんはせわしないさけ年寄りにあずけて行ったがや。」

3才男児

例2「きのうね、おじいちゃん年いっちゃったから還暦きたんや、そいでねまりちゃん花束あげたの。」

3才女児

家庭に子供が興味をひく何かがあるとそれに対していろんな知識を広める。

最近では自動車の名前や小鳥の種類、愛玩動物、ピアノの事など話題に多い。

特に、自動車の名前（コルツ1000、ブルーバードデラックス、トヨペットコロナ、ヒルマノンミクス、スノータイヤ）型はほとんど一致する。

② マスコミの影響

社会の中でもテレビの話題が多く、そのほとんどが冒険探偵活劇物である。そして人間を外観だけで善人と悪人の二つに分類したがつたりテレビの主人公になりたがつたりする。

例3「けい子大きくなったらビッグエックスになって喧嘩するもん。」

3才女児

例4「ほんでもオックスの方が強いぞ、鉄で出来とるさけ、ほんなら風のふじ丸になるもん、風のふじ丸の方強い強いウエ。」

3才男児

例5「ぼく大きくなったら忍者部隊になるんやぞ。」

5才男児

時にはテレビの中の天気予報などの話題もでてきている。

例6「今日私、天気予報みとったもん、ほしたらゆきだるま出とったもん。」「ほうや、私もやもん」

3 才 女 児

番組の選択もそれぞれ問題にしている。

例7「先生、今日何曜日。」「今日は月曜日よ。」「えーと、ほしたら今日は風のふじ丸の日やねえ。知るとる、先生もみまっしね。」

3 才 児

例8「今日は7時半からトムとジェリーがあります。」

4 才 児

例9「お前、鉄人みせてあたらんがかあーかわいそうやウエー、みせてもろこっちゃ。」

5 才 児

テレビのコマーシャルの影響、流行語、新しい言葉を会話の途中によく使っている。よく使用しているものの例をあげてみると

- 1 「タニヤンがマミヤン飲んでいこうか。」
- 2 「きいてみなくちゃわからないもんだね。」
- 3 「社長さんはいい気持。」
- 4 「頭にきりきりとくる。」
- 5 「しびれちゃう。」
- 6 「それは頭の問題や。」
- 7 「おいーサービスしてくれや、よしサービス万点やぞ。」
- 8 「好きで、好きで、大好きで。」
- 9 「みなのにゅう、みなのにゅう。」

(8、9はゲームや積木などで遊んでいるときに歌となって口からでてくる……4、5才児)

③ 社会の出来事などにも目を向けているという事が子供達の会話の中からみられる。

例10「交通事故の事。」

例11「先生、原子力潜水艦どうして来たらいかんか知っとるけ。」

「どうしてかしら。」

「あのね、きたないもの出すしや。」

5 才 男 児

④ 又時に最近の時代という事から影響を受けているという面もみられるのではないか。

例12「赤の事ね、英語でレッドっていうがや。」

4 才 女 児

例13「傘の事英語でアンブレラーっていうウエー。」

3 才 女 児

例14「今はせみのシーズンや。」

5 才 男 児

テレビでも家庭でもいろんなところで英語などを使っているので、影響を受けているので

はないかと思う。又両親がおけいこ事とか勉強の事に熱中する時代なので、ごっこ遊びをしていてもその様な会話がみられる。

例15「さあー、バレーのおけいこに行きましょうねえ。」

4 才 女 児

例16「これ真理ちゃんと久美ちゃんの勉強部屋やぞ。」

「誰も入っていかん。」

3 才 女 児

ゲームなどをやっていて出来ない子供などがいると

例17「できんがかあ、ほんなら家帰ってから練習しまっしい。」

ままごと遊びでパーマ屋さんごっこをやって一人の子供がさか毛をたてている。それをみていたもう一人の子供が

例18「パーマ屋さんのするのみとるさけ、わかるがやろ。」

3 才 女 児

家庭の人、或は母親に美容院に連れて行ってもらったとき自分もみていたのであろう。

又子供の中でも、美容院でカットなどしてもらう子もいるので、当然 この様な影響だらう。

この様にみてくるといかに家庭環境、社会の影響とみられる言葉が子供の会話の中に多いかに驚く。

「テレビっ子の教育」とさげばれているがほとんどの子供が冒険探偵活劇物をみており、言語や遊びの中にその影響がみられる。家庭でのテレビ番組の選択などにも問題があるのではないかと思う。

5. 幼児の空想性と現実性

子供達の自由な会話を通して子供の空想性と現実性を考察してみた。

どの子供も子供という子供はみな夢を抱いている。子供達の胸には小さな夢、そして大きな楽しい様々な夢が宿っている事を会話を通して知る事ができる。現実の生活をしながら彼らは空想の世界に生きているのである。

① 空想の中では全宇宙、神様までが子供の望みに応じてどんな形にでもなる。

例 1「へびにかみつかれたらどうやろ。」

「ほしたら、ほうちょうもってきて、頭ザックリ切ったらいいわ。」

「ほしてね、小さいのに切っておすしにしたらいいわ。」

「ほしてね、おすしをへびに食べさせるがや。」

4 才 児

例 2「神様がえいこちゃんのこと、たたつけてやるってどうする？」

「髪むしってやればいいがや。」

「カナズチでポンポンたたいてお腹切ってからっぱにして、庖丁で切ってやれどいいがいね。」

3 才 児

- ② 又子供には、「事実とつくりごと」との間には何らはっきりした境界線がない。おとぎ話すなわち、子供にとって現実であり、彼らは「話は真実を基礎にしていなければならない」とか、「真実は生活上、欠くべからざる美德だ」とかいう観念をまだ全く持っていない。

例1「僕の手機械なの、そして今こわれてるの、だから、予防注射しなくちゃならないんだよ。」

4 才 児

例2「積木、食べれるうえ、三角の積木食べたら、三角の顔になるうえ。」

4 才 児

例3「幼稚園にあの雲落ちて来たら、それに乗ってお空にあがるうえ。」

5 才 児

例4「神様お元気ですかって、お手紙書いて天まで飛行機で持っていけばいいがいね。」

3 才 児

例5「私、来年死ぬわ、だって好き嫌が多いんだもの。」

5 才 児

- ③ 又実際に子供の言葉に接していると、意外に現実的な物の見方、考え方をしているのに出くわすことがある。けれども、それ自体独立しているのを見ることは少なく、大抵、現実性が空想性と共存していることを知らされる。

例「大人がけんかして、そして私なんかおこるんだから、いいきになりあがってるわね、自分で考えてみるといいわ、おばけになっておどかしてみたいわ、だってあんまり怒るんですもの。」

「へエ……おもしろいわね。」

「私のお父さんたら、すぐおこるから嫌い、いやなお父さん。死んでしまうといいわ、なんでもすぐ怒るから嫌い、失敗するとお母さんもすぐおこるの。」

「そうよ。うちのお母さんも、ガンコババアなんだから。大人の話に子供が首をつっこむってね。」

「私だってお母さん、すごいんだからキーキー、ギャギャ、ハーハー、お父さんお母さん消えるといいわ。ランプ持っているといいのにね!」

「自分で考えてみたらいいのよ。そういったって、こっちだって考えがあるわ、私一人で充分考えてみるわ、私にも考えがあるといいました。お父さんギャギャ、お母さんギャギャ、こっちだって考えがありますよ。」

「サンセイサンセイ」

5才女兒二人の会話

私共は、子供の現実の生活の面で伸ばすべきことは正しく伸ばし、ものの見方や考え方を教えなければならない。その一方、子供のはてしない夢はすこやかに育てて、明日の世界の貴重な花として開かせることが大切である。その為には、子供を見守る大人の心に豊かな夢が必要であることを痛感する。